



広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.
1999

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 田中 健志
幹 事 金本 善行

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ Building Communities Bridging Continents

「地域を育み、大陸をつなぐ」

本年度会長テーマ

「ロータリーを楽しもう」

「新世代のための月間」

2010年9月30日 第1975回例会

◆ 会長時間 ◆

田中会長



残念なお知らせをします。
12年間活躍してくださった西原会員が本日限りで退会されます。西原会員の挨拶文を代読させていただきます。

次に報告が3件です。

災害義援金の件です。今年7月16日の庄原市を襲った集中豪雨災害に対して地区前田ガバナーから支援依頼があり、8月分会費で皆様からお一人当たり1,000円拠出していただき、合計85,000円の義援金を地区に送金いたしました。地区全体で約300万円を、庄原市に対して防災パトロール車1台と残金を特別支援金として寄贈したとの報告書と礼状が届きました。

2008-2009年度ロータリー財団奨学生の方井淳子さんから、留学を終えてのレポートが届きました。当時のカウンセラーは広島市立大学の三原会員でした。ロータリーとしての支援はベルギーでの6ヶ月間だけの文化研修でしたが、その後本来目的であったフランスルーアン美術学校に編入され、今年無事卒業し帰国されました。私は皆様よりも先に読ませていただきましたが、素晴らしいレポートでした。ぜひご一読ください。また今回の彼女のフランス留学が、ロータリーが支援したベルギーでの文化研修と関連するとは言え、ロー

タリーの支援が終った後の、別途自費留学での成果を報告してくれた彼女の人間性に感激しましたし、さらにはロータリー財団奨学生制度が大変意義深いものであると改めて認識いたしました。

9月22日に地域環境委員会の皆様が、西区井口小学校の校門で午後3時から子供見守り活動を実践されました。大変お疲れ様でした。地域環境委員会では、今年度最初の3ヶ月間早々と既に1年分の計画を全て消化されました。今後は他の委員会活動の支援をお願いいたします。

退会ご挨拶

地域・環境委員会の西原です。

平成10年7月、松岡幹太郎さん、河野健さんのご推薦で入会いたしました。この度本日を持って、退会することになりました。

この間、理事や委員長など歴任させて頂き、それなりに頑張ってきましたが、まだまだ十分な役割を果たせず申し訳ありません。

同好会にも色々と参加させて頂き、楽しい思い出で一杯ですが、今回の退会を機にこれから、仕事に、社会奉仕に別の面から頑張っていく所存です。本当にありがとうございました。

広島西RCのさらなるご発展を祈念して退会の挨拶とさせていただきます。

平成22年9月30日

西原英治

●会務報告

金本幹事

※例会臨時変更

- 10月13日(水) 広島陵北R C 「職場訪問例会」
 10月18日(月) 広島中央R C 「職場訪問例会」
 10月19日(火) 広島西南R C 「職場訪問例会」、
 広島安芸R C 「広島東R C 合同夜間例会」
 10月20日(水) 広島東R C 「10月19日広島安芸R C 合同夜間例会」
 10月22日(金) 広島城南R C 「職場訪問例会」
 10月29日(金) 広島南R C 「職場訪問例会」、
 広島城南R C 「夜間例会」

●委員会報告

出席報告 新原委員

本日(9月30日・木曜日)

会員数	85名	出席者	60名
欠席者	25名	ご来客	4名
ご来賓	2名	ゲスト	1名
		計	67名

前々回(9月9日・木曜日)

出席率 100%



※米山奨学委員会

古屋委員長

米山奨学会普通寄付協力募金の

お願いについて

今年度米山奨学委員会では、地区協議会での要望を受けて米山募金ボックスを設置させていただくことになりました。

先月の第4例会ではお陰様で26,950円の募金を頂きました。有り難うございました。

毎月で恐縮ですが、後ほど回覧させていただきますので、募金へのご協力を宜しくお願いいたします。

※地域・環境委員会

瀬尾委員長

9月22日(水)広島市立井口小学校の下校時、寄贈した緑ジャンパーを着て子供見守り一日体験活動を実施しました。

参加者は広島市西区増川区長、区政振興課蓼原課長他2名と広島西R Cからは4名、梶川副会長、柴田理事、大西委員と瀬尾でした。

八谷校長先生より学校創立137年の沿革や地域連携などの説明を受け、1年生、2年生がグラウンドに帰宅方面ごとに整列して、校門でハイタッチしながら子供達を見守りました。子供達の無邪気かわいらしい笑顔が心に強く残った気持ちのよい事業活動でした。



井口小学校下校時

見守り活動



※2008－2009年度ロータリー財団奨学生

向井淳子さんの留学レポート

留学を終えて

今から4年前、版画表現の中で版画技術の面白さに没頭していた時でした。

私が描いている版画のイメージがどこかとても遠くに感じ、私は自分自身に問いかけました。

「私は版画を通して、自分の中に混在する何を意識し、何を表現したいのだろうか。」ちょうど、広島のアート作品が美術館やギャラリーの中だけの展示ではなく、人と人が触れ合うことのできる屋外へと進出し、その視点が社会との接点を問かける考え方へと変化しつつある時代でした。これらのアートには技術を習得した作品というよりも、現代社会の問題と私たちの生き方についての関連性を深く感じました。

「フランスは美術の理論や概念の強い作品が流出しているらしい。」もともとフランス版画に興味を抱いていたので、わたしは版画研究においてより違う視点から探求したいと思い、ルーアン美術学校で学ぶことを決めました。2006年の秋でした。

【アートと教育】

まず、留学のはじめは私を混乱させました。とりわけ芸術の領域の中で、これまで私が日本で研究してきた内容と比べ、学生たちの作品の表現方法の組み立てが非常に大きく違っていたからです。それは、巧みな技術をつかった完成度や表面的な仕上がりの美しさよりも、モノの実体に潜む歴史や用途を重点的に表現されていることでした。

その背景の一つとして、授業体制の中に大きな特徴がありました。自分の作品を先生に観てもらおうときには、必ず作品の明確な意図を簡潔

に伝えなければならず、日本での受身の態勢だけでは解ってもらえませんでした。私は、「説明しなければわからないアートなんてアートではない」と、ここで強く思い、芸術表現の根本的な要素が不明確になりました。

ところがある時、西洋においてアートと生活が互いに親密な関係であるのではないかと気づき始めました。なぜなら、授業の中での課題で実践した「宗教(キリスト教)やギリシャ神話」、「系統性とその繋がり」、「個人と都市の関係について」といった自分と社会との関連性を探求していく分野、そして「見えるものと見えないもの」、「時と軌跡について」、「アイデンティティ」、といった自分自身を探求していく分野を学ぶことができたからです。また、実際の生活の中でも土地の風土や文化に、自然的に触れることができました。

同時に、これらは学問とも親密な関係であることも語っているのではないのでしょうか。学校の課題は、様々な問いに対してあらゆる角度から分析し解いていく「数学の証明問題」のように感じました。はじめは、この解き方がまったくわからず、ヒントをもらってもなぜそのヒントなのかさえ解かりませんでした。（例えば、「絵画をどのような視点で見るのか」という課題で、先生からもらったヒントが地図学でした。まったく不可解でした。）しかし、研究の組み立ての中で、アート表現を数学的に分析し、ルネサンス時代に誕生した遠近法の理論は数学から、また遠近法の中の「主観的」な視点に対して地図の図法の「客観的」な視点は社会科（地理）から、草花の性質や天体は理科の分野から、また、中でも人類の歴史や文学と美術の関連性は切っても切り離せないものでした。その中から、特に歴史と国語からは自分のアイデンティティを模索し「私は日本人」と、強く意識しました。

【技術と知識】

そんなわけで、日本とフランスの美術学校の文脈のなかで、前者の「技術取得偏重の教育体制」と後者の「知識習得偏重の教育体制」といったそれぞれの特徴が浮上りました。留学以前までの銅版画の研究を振り返ってみると、制作を進めていく中で起こる失敗・疑問を解決していくことにもやりがいを感じていました。また、版画は絵画と比べて薬品の効果により偶然出来上がった形状によって新しいアイデアが浮かぶ

などして、版画の技術を身につけられる自覚と共に私のモノ創りへの意欲を引き立てました。対して、フランスではまず「何を描くのか」といった形の見えていない状態から始まり、探求するために複数の可能性を比較・分析し、頭の中で考察し組み立てます。その途中で、言葉の迷宮に迷い込んだときが何度もありました。次第に作品が形として現れない・浮上しない工程に恐怖を感じましたが、さまざまな文献を調べ、相談することで進展し、新しいアイデアが突然現れ、見えないものが見えるものへと発展していきました。

そんなわけで、この過程は銅版画制作の工程で得たときと共通するものがあるのではないのでしょうか。人間が創ったものであるといわれる西洋の文化と、自然に順応して文化を創造する日本の文化との両方の違いと共通点が、アートの持つ知識的な分野と、感覚的かつ技術的な分野は共にハーモニーを交わし響きあっているのではないかと思います。

【空間について・これから】

ルーアンで学校の試験準備のため何回か自分の作品展示を実験したのですが、そこで問題となったのが、自分の作品を第三者に「どう見せたいか」ということでした。そんな中で、次第にこれから作品を制作するだけでなく、鑑賞者と自分（作品）との間に起こる空間に興味を示すようになりました。『「ほんもの」という概念は、オリジナルの「いま」「ここに」しかないという性格によってつくられる。』（ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代における芸術作品」より）展示室に入ってときに感じるアウラ（aura）が、鑑賞者が作品と場に出会う一回きりの瞬間であるのではないかと思うからです。

ルーアン美術学校内の建物で実施されたフランス国家美術造形試験で、審査員に問われた一つの質問が忘れられません。「貴方にとってこの美術学校の建物の一室に展示することにおいて、この空間をどう思いますか？」

これからの課題になりそうです。

おかげさまで、両国の文化を知ることができ、アートへ取り入れることができました。これまでご支援してくださった広島西ロータリークラブの皆様の大いなるご支援にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。

😊 齊藤昭一君 (自主申告) 大枚

このたび次女・奈央子が11月7日、米ニューヨークの聖母マターズ教会で結婚式を挙げることになり、9月18日に当ANAクラウンプラザホテル広島で結婚披露宴を催しました。アメリカ人との国際結婚で、ニューヨークで暮らすことになりますが、大変嬉しく喜んでおります。愛娘の末永い幸せを祈って出宝いたします。

😊 新原靖君 (自主申告) トリプル

9月28日付け中国新聞夕刊の「でるた」欄に「ドナーについて」と題して寄稿しました。臓器移植法が改正され、家族同意による移植のニュースが頻繁に伝えられるようになった昨今、皆さんの参考になれば・・・と数年前に骨髄移植のドナーを体験した当時の思い出をつづりました。今後とも世のため、人のために尽くしたいと思います。

😊 井原俊彦君、鮫島茂君 (自主申告)

前期高齢者の医師4人から成るハワイアンバンド「トロピカル・アイランダーズ」は9月16日、当ANAクラウンプラザホテル広島で「ハワイアンの夕べ」を催しました。お蔭さまで約300人の友人、知人に来ていただき、また西RCのメンバーも多数ご参集いただき有難うございました。皆さんの反応の第一は、リーガに比べて食事がよかった、第二は共演したフラダンスチームが若くてキレイだった、でした。鮫島君と一緒に出宝させていただきます。

😊 長谷川行信君

9月25日の広島ゴルフ倶楽部鈴が峰コースの月例杯で優勝され、お目出とうございます。スコアはイン44、アウトも44の88、ネット69とのこと。スポーツの秋、ますますのご活躍を願ってダブルでどうぞ。

😊 鈴木義尚君 (9月23日 日経新聞)

米保険大手プルデンシャルは米AIG傘下のエジソン生命保険とスター生命保険を買収する見通しとなりました。同社はM&A(合併・買収)による日本事業拡大に取り組んできており、2生保を買収すれば日本での保険料等の収入は業界6位、外資系では最大手になります。一層のご発展を祈ります。

😊 末岡徹照君、大本和則君、小田清和君

あす10月1日は「法の日」です。1960年(昭和35年)法務省が法の尊重、法による基本的な権利の擁護、社会秩序を確立する精神を高揚する日として制定しました。法律に関与する専門家として、今後のご活躍を期待します。



人口減少と 地方都市再生

中国経済連合会
竹野 宗彦氏

「人口減少時代における地方都市の再生に関する調査」の概要

わが国の人口は2005年より減少傾向に転じている。中国地域の各都市の状況を見ても、政令指定都市である広島市、岡山市の人口は当面増加・維持となる見通しであるが、それ以下の規模の都市は今後、確実に本格的な人口減少と、高齢者人口の増加に見舞われる。地域のこうした環境変化に伴って、都市中心部の空洞化の進展、郊外住宅団地の空洞化・老朽化などさまざまな課題の発生が懸念されている。

そこで、本調査は、中国地域の人口50万人未満クラスの都市に着目して、それらの都市が直面する諸課題を整理すると同時に、他地域の先進的な取り組み事例等の分析を通じて、都市再生のあり方を調査・検討した。

人口減少によって地方都市に生じる課題

本調査においてはまず最初に、人口減少、高齢化の進展によって、全国各地の地方都市において既に生じている課題、あるいは今後発生すると考えられる課題としてどのようなものがあるかについて整理し、その概要を紹介した。人口減少が地域にもたらす問題については、人口の年齢構成の変化に基づくものと、需要や供給の縮小に伴うものの2つに大別でき、これに加えて人口増加、高度経済成長の中で拡張してきたさまざまな都市機能の老朽化を挙げることができる。そこで、これらの問題が、いかなるかたちで発生するかについて、都市全体、都心部、郊外などの区分ごとに整理した。例えば需要の縮小という問題についてみると、都市全体では公共交通機関の廃止・縮小、公共施設の統廃合といった課題が生ずるほか、都心部では商業機能の空洞化といったような課題が挙げられる。

中国地域における都市の人口減少、高齢化の動向

次に中国地域の動向を調査した。中国地域の各市の人口規模別の内訳を見ると、人口50万人以上が2市、20～50万人が5市、10～20万人が13市、10万人未満が34市となっている。

中国地域の人口10～20万人、20～50万人規模の都市は今後、本格的な人口減少、高齢者人口増加に直面する見通しであり、これらの都市の将来人口推移は、中国地域全体の平均と傾向が類似している。他方、人口50万人以上の都市は、2020年頃まで現下の人口を維持する見通しであり、高齢化率は相対的に低いものの、人口が多いためその実数は急ピッチで増加していくと予想されている。さらに、人口10万人未満の自治体は人口減少が顕著であり、高齢化率も高いが、大幅な人口減少と相俟って2020年以降は高齢者人口まで減少する局面に入る見通しである。

本調査において着目する都市のタイプ別分類

本調査では、中国地域の都市の人口動向などを踏まえ、人口10～50万人クラスの都市について、都市が直面する課題と解決策を探ることとした。

都市の課題は、人口規模、人口変動、高齢者人口変動などによって異なるため、中国地域の10～50万都市について、図を作成したところ、図表1のとおり、大きく分けて4つのタイプに分類された。なお、東広島市は、唯一人口増加となる一方

で、急激な高齢化に見舞われるという特異なポジションを占めている。

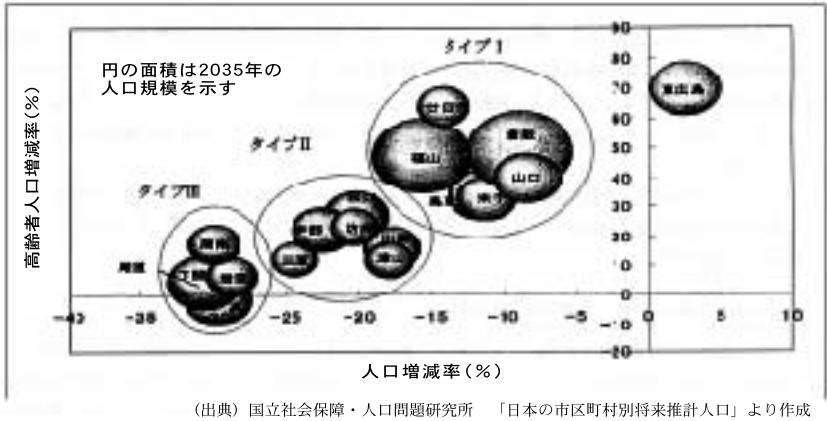
タイプ別都市の課題と解決策

前述の都市のタイプ別分類を踏まえ、それぞれのタイプ別都市の課題を整備するとともに、その解決策を提案した。（図表2のとおり）

タイプ別都市の課題の特徴をみると、高齢者人口が大きく増加するタイプⅠの都市では、人口の年齢構成の変化に伴う課題が相対的に、より深刻であると考えられる。また、タイプⅡの都市は、人口規模は相対的に小さく、人口変動（高齢者を含む）はタイプⅠとタイプⅢの中間的な性格を有する。このため、都市毎の性格・課題に応じて、タイプⅠ・Ⅲの都市における解決策を適切に使い分けていくのが現実的である。一方、都市人口の全体的減少が顕著なタイプⅢの都市では、需要・供給の縮小に伴う課題が相対的に大きいものと推測される。

また、本調査では、解決策の参与となる他地域の取組事例を紹介している。

図表1 中国地域の10～50万都市の人口動向（2005→2035）



図表2 タイプ別にみた中国地域の都市と課題と対策

タイプ	将来人口	都市名	課題	解決策
Ⅰ	人口規模 大小 人口減少 倉敷市 高齢者 人口増加 大	鳥取市 米子市 倉敷市 廿日市市 山口市	・高齢者が急増するため、高齢者にやさしい都市構造の実現が課題 ・郊外市街地の高齢化・空洞化が進展	・都市機能の集約・維持 ・ユニバーサルデザインの推進 ・都市施設の需要の若年層から高齢者へのシフトを踏まえた用途転換の推進
Ⅱ	人口規模 小中 人口減少 高松市 高齢者 人口増加 中	松江市 出雲市 津山市 三原市 宇部市 防府市	・タイプⅠとタイプⅢの中間的性格	・都市毎の性格・課題に応じて、タイプⅠ、Ⅲの都市における解決策を活用
Ⅲ	人口規模 小大 人口減少 人口増加 小	呉市 尾道市 下関市 岩国市 周南市	・将来的には、高齢者人口の動向以上に総人口の減少が激しく、都市全体が縮小局面 ・単独では、都市としての機能維持が困難	・都市の個性・資源を創造的に発信することでブランド力発揮 ・周辺の都市・地域との広域連携・役割分担による都市機能の享受

以上

● 卓話予告

日時	テーマ
10/14(木)	「囲碁の魅力」 日本棋院 棋士 山本 賢太郎 氏